

編集後記

早いもので今年もあと1ヶ月足らずとなりました。正月に起きた能登半島地震からほぼ1年が経過しましたが復興にはまだ程遠く、被災者の方々に平穏な暮らしが早く訪れることを願います。衆議院選挙で過半数割れした与党ですが首相指名選挙の結果、第2次石破内閣が発足し前途多難な再出発となりました。一方、米国の大統領選挙では接戦の末、来年1月トランプ次期大統領が返り咲き、世界中が今後の動向に注目しています。

「誌上ギャラリー」には天辰健二先生から「余韻に浸る」をいただきました。クリスマスイルミネーションで輝く、みなと大通り公園の幻想的でロマンチックな一コマが切り取られています。

「論説と話題」には長友医継副会長、はじめ各専門医会会長の先生方からの年末のご挨拶と、医師会事務局長の中園豊明様、臨床検査センター副センター長の甲斐貴之様、医師会病院事務部長の吉村達也様、夜間急病センター事務長の川畑一也様から、1年を振り返りご寄稿いただきました。

大分市で開催された「第60回九州首市医師会連絡協議会」での各会議・討議の内容と、日本医師会会長、松本吉郎先生の特別講演、日本旅館協会会長、桑野和泉氏の文化講演などについてご報告いただきました。

宝山ホールで開催された「第41回市民健康まつり」での北京五輪競泳メダリスト宮下純一氏の講演など、健康学習主担当理事のウェレット朋代先生からご報告いただきました。

「トピックス」には令和6年度会員表彰について報告されました。対象となられた先生方の永年のご尽力に敬意を表したいと思います。

「学術」には鹿児島市医師会病院ペインクリニック内科の園田拓郎先生からぎっくり胸（胸椎椎間関節症）の1例をご報告いただきました。鹿児島市医師会病院脳神経内

科・総合内科の中川広人先生から、アルツハイマー病に伴う軽度認知機能障害（MCI）に対して保険適応となったレカネマブ投与症例を中心に報告されています。鹿児島市医師会病院外科の渡邊照彦先生から、手術、化学療法、放射線治療、緩和治療などの集学的治療の進歩により長期生存が得られている消化器癌4例をご提示いただきました。鹿児島市医師会病院緩和ケア科の馬見塚勝郎先生からは、緩和ケア病棟で使用されている予後予測シート「コスモシート」の精度についての統計学的考察と、臨床的有用性について報告されています。鹿児島市内科医会10月例会での静風荘病院女性内科の天野恵子先生のご講演では、性差を考慮した医療の実践の経緯と東洋医学との併用の有用性が述べられています。

粟博志先生の連載「音楽の散歩道」は、ベートーヴェンの「第9」200年記念シリーズで、豊富な図とともにベートーヴェン弾きピアニストについて解説されています。

「リレー随筆」は鹿児島大学病院研修医の厚地岳人先生の「さあ、映画だ」です。医療に関連したテーマの洋画・邦画について簡潔にした的確に解説され、厚地先生の映画についての造詣の深さに敬服しました。

「鹿市医狂壇」の題吟は「掃除（そっ）」です。これからも皆様のご投句をお待ちしています。

そして気が付けば、かの「2025年」です。いよいよ超高齢社会に突入し、医療・介護、雇用、福祉などへの深刻な影響が懸念されています。一方、近年のAIの進歩は想像を遙かに超え、さらにスーパーコンピューターを凌ぐ「量子コンピューター」なるものも開発が進み、いずれ従来コンピューターを補完する存在として活躍するであろうとChatGPTが教えてくれました。まずは2025年が良い年になりますことを願いましょう。

（編集委員 森岡 康祐）